

学び舎通信

10月号

町内小中学校の情報を
毎月お届けします



大中

高校の出前授業
9月13日、進路指導の一環として、3年生を対象に高校の先生による出前授業を行いました。英語、社会、電気、福祉、商業、金属加工など、いくつかの授業の中から一つを選んで授業を受けました。高校ならではの授業もあり、生徒たちは進路選択に向けて参考になったようです。授業の後には説明会を行い、各高校の特色についてお話をいただきました。
生徒の感想は、「高校の授業は難しいと思うので、中学校の勉強を頑張つて力をつけていきたい」「今日の授業を受けて〇〇高校もいいかなと思った」など様々です。希望する進路に進めるよう頑張つてほしいと思います。

伝統芸能に触れる雅楽鑑賞会
9月6日、金ヶ瀬中学校で「古典音楽に親しむ会」雅楽鑑賞会」が行われました。新体育館のフロアに直に座り、間近で本物の雅楽の音楽と巫女さんによる神楽の舞や勇壮な舞楽の舞に生徒たちはあらためて、日本文化の良さを実感していました。
この鑑賞会にあたり、宮城県神社庁の方々と宮城野雅楽会の皆さま、26名の協力のおかげで、味わったことのない感動を体験することができました。また、実際に雅楽器体験もさせていただきました。体験した吹奏楽部の生徒たちも難しさに驚き、音が鳴つて感激していました。11月には金ヶ瀬伝統の「堤神楽講習会」が控えており、金ヶ瀬にある伝統芸能にもさらに関心が高まった時間になりました。



金中

暗唱大好きシリーズ⑥ 南小編

「今月の詩」を覚えて合格シールをもらおう!!

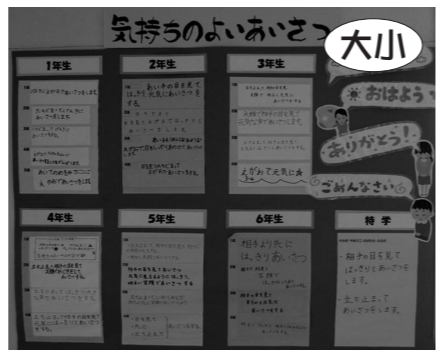


合格シール

国語の授業は、全員声のそろった暗唱から始まります。教室の前面に「今月の詩」を掲示することで、授業のあいさつの後、すべからず暗唱してから授業が始まるのが学習スタイルとなっています。
また、生活カードにも「今月の詩」を載せることで子どもたちは家庭でも毎日の音読に加えて、詩の暗唱にも取り組んでいます。暗唱できるようになると、おおがわらの暗唱読本「寿限無」を持つ



暗唱を通して、言葉の豊かさや触れ、表現を味わい、国語の楽しさをより一層感じることができていると感じています。今後「寿限無」を活用し、子どもたちの国語力向上に向けて取り組んでいきたいと思っています。



大小

気持ちのよいあいさつ学校に
本校の目標の一つに、学校や地域で「気持ちのよい挨拶をする」があります。目標達成のために、子どもたちは、学級ごとにどのような挨拶が気持ちのよい挨拶なのかを話し合いました。「立ち止まって挨拶をする」「元気に笑顔で挨拶をする」「相手の目を見て挨拶をする」などの意見が出されました。そして、それらの目標を職員室前に掲示しました。
挨拶は、人と人との心をつなぎ、豊かな人間関係を築きます。教職員も児童も一つになり、学校や地域で気持ちのよい挨拶を心掛けていきます。



金小

児童朝会
9月6日、児童朝会がありました。今回は保健・給食委員会が担当しました。「食べ物について考えよう」というテーマで、委員会の子もたちが問題を考え、クイズ形式で行いました。大人でも難しい問題を子どもたち自身が調べ、クイズを作るだけでなく、食べ物成分や体によい効果があるか分かりやすく説明してくれました。とても素晴らしいと思います。
ア「日本のお米で本当にある品種のお米は？」
①とちおとめ②森のくまさん③ユメヒカリ
イ「なすが生まれた国は？」
①日本②アメリカ③インド 答えア②イ③

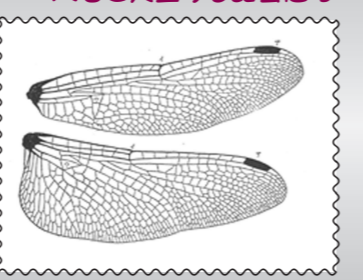


南小

「自己新記録をめざして！」
今年度プールで身に付けた泳ぎに関する様々な技能を発表し合う場として水泳記録会を実施しました。
暑い日差しの中、体育の授業、イルカ教室(個別指導)、夏休みのプール開放で積み重ねてきた努力の成果を発揮しました。
高学年は「自己新記録を出します。」「〇〇さんに勝つようにがんばります。」という宣言をしてから泳ぎました。自分で立てた目標を達成した子どもたちの姿は、自信と喜びで輝いていました。

身近な自然再発見

…人間と共生する昆虫たち…



トンボの羽

30「トンボと火星探査機」

「昆虫は人間よりも進んでいる!」と、主張している本を見つけた。それは本当でしょうか?今回は、トンボの羽の説を証明できるかも…という話です。

アメリカのNASAは以前から火星探査機を開発してきました。難しいのは着陸するときにゆっくり降りないとタマなことが。NASAはトンボの羽をヒントにして軟着陸させる研究を進めています。

トンボたちは4億年前の古生代に人類よりずっと前に誕生しました。今では地球上のどんな場所でも自由自在に飛び回っています。ごつやってトンボは自分の思うとおりに飛んでいるのでしょうか?

まずはトンボの羽の模様を拡大してみましょう。肉眼では平らに見えた羽の表面に、山脈と谷間のような細かい凹凸がたくさん並んだ筋が刻まれています。その凹凸のおかげで空気の流れに複雑な渦が発生します。渦が作る揚力(浮かせる力)を筋肉で細かくコントロールしながらトンボは速くもゆっくりも飛べるのです。

人間は現代になってヘリコプターを発明し、やっと垂直離陸や空中停止が出来るようになりました。しかし、たくさん部品や制御するためのコンピュータ、燃料などが必要で、

トンボは羽を動かすだけでスイスイ飛べるのですから、この勝負はトンボのほうに軍配を挙げても文句は出ないでしょう。
近い将来、火星の空をゆっくりと舞い降りる探査機の画像を見た時に、トンボと探査機の「心か」い「つながり」を思い出していたら嬉しい限りです。
次回は、トンボに負けない匠のわざを繰り出すハチを紹介しましょう。

元金小校長、昆虫教室(町教育委員会主催)講師 鈴木健司さん